

担い手の役割について（他市町村 参考）

自治体名	役割分担
四条畷市	<p>社会的課題や地域課題については、市民が自らの努力と工夫で解決しなければならない課題と、行政の責任において解決を図らなければならない課題、そして市民と行政が協働で取り組まなければならない課題があります。</p> <p>市民と行政、あるいは市民同士が、協働の原則を踏まえて、力を合わせて課題の解決に取り組むことが望まれます。</p> <p>ここでは、協働のまちづくりへの具体的な取り組みパターンを整理しました。</p> <p>（1）市民の取り組み</p> <p>市民は、さまざまな立場の市民が参画した会議での意見に基づいてつくられた「四条畷市みんなでつくる協働のまちづくり指針 改訂版」を最大限に活用し、協働の主役としての自覚を持ちながら、自分たちの思いや現場感覚、能力、ネットワークを生かして、積極的に協働のまちづくりを推進します。</p> <p>◆市民として◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが暮らすまちに関心を持ち、「広報しじょうなわて」や四条畷市ホームページなどを活用して、地域の情報を積極的に収集するように努めます。 ・四条畷市や地域の行事などに、積極的に参加・参画するように努めます。 ・まちづくりや協働に関する学習機会などに積極的に参加し、協働の認識や理解を深めていきます。 ・ボランティア活動や地域活動など、社会貢献活動に積極的に参加し、自らが持つ知識や能力、行動力を活かしていきます。 <p>◆ボランティア、NPO、市民公益活動団体として◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「協働のまちづくり」を進めるにあたり、自分たちの持つ能力や経験を積極的に活かします。 ・協働を担う者として、自分たちが持つ情報を積極的に公開し、信頼性を高めるように努めます。 ・各主体どうしが、それぞれの資源（人材・情報・資材など）を持ち寄り、交流を図ります。また、共通の取り組みを積極的に行い、横断的なネットワークの輪を広げるように努めます。 ・自分たちの活動に使い補助・助成金の透明性を高めます。また、自分たちの活動資金は、団体や事業のPRを積極的に行い、寄附を募るなど、可能か限り自分たちで集めるように努めます。 ・地域の特性や資源を活かしたコミュニティビジネスに取り組むなど、組織の自立的・継続的な運営を目指します。 <p>◆自治会などの地縁組織として◆</p>

住民ニーズや地域課題の把握に努め、地域でできることは地域で自主的に解決するようにします。

・公益活動や協働について理解を深めるため、地域の集会所などを利用した情報交換など日常的な地道な取り組みを通して「協働のまちづくり」についての意識醸成を諮ります。

・安心・安全なまちづくりを推進するため、環境、福祉、防災・防犯などの地域課題に向けて、情報を共有し、地域住民相互の連携を図りながら、地域全体で取り組みます。

・若年層の参加の促進、世代間交流の促進、次世代のまちづくりを担う者の幾瀬などを図り、地域活動に新しい活力を導入します。

・住民の参加意識を高め、地域コミュニティの発展を目指します。

◆事業者・企業として◆

・地域社会における一員として、また企業市民として、さまざまな地域産業組織どうしで協力・連携し、積極的にまちづくりに参加します。

・よりよい地域社会実現のために、幅広い社会貢献活動を行えるよう、事業所・企業内で地域社会との協働に関する理解を深める研修やボランティア育成などの環境づくりに努めます。

・地元の事業者・企業どうしの連携を強め、より効果的なまちづくりや地域活性化に努めます。

・地域社会に貢献するための良きパートナーとして、事業者・企業が持つ情報・人・資金・施設・技術・ノウハウなどを提供し、地域における公益活動に対する支援の推進に努めます。

◆学校等として◆

・社会を構成する主体のひとつとして、積極的にまちづくりに参加します。

・豊かな経験や知識、技能を持つ市民や市民公益活動団体などと、顔の見える交流を積極的に進めるように努めます。

・地域に向けて学校を開放していくなど、市民の力を学校運営に生かし、また地域との連携により、児童・生徒の安心安全を図るなど、地域教育コミュニティづくりに参加します。

・専門的な知識や技術を活用して、公開講座や講演会を開催したり、まちづくり活動に人材を派遣したりするなど、生涯学習を支援します。

・可能な限り施設を開放し、学生と市民との交流を進めるなど、幅広くまちづくりに活かすように努めます。

藤井寺市

協働を進めるための役割と市の取り組み

協働を進めるために、市民と市の役割、そして、市の取り組みについて述べます。

○市民の役割

① 地域社会の一員として、自らができることを考え、積極的に公益的な活動に参加

すること。

② 市政情報を得て、さまざまな機会（※）を通じて、市政に参画すること。

※市では、市政アンケート調査やパブリックコメントの実施、各種会議の公開、審議会委員等の公募委員の募集などを行っています。

○市の役割と取り組み

① 市民同士の交流と市民公益活動を支援する体制づくり

市内でエリア型・テーマ型それぞれの活動が盛んになるための各種施策を展開し、市民公益活動の促進に努め、「協働のまちづくり」のパートナーを支援します。

【取り組み1】 市民公益活動団体同士のネットワークづくりの支援

市民公益活動団体の情報収集を行い、団体同士の交流会を実施するなど、自立的なネットワークづくりを支援します。

【取り組み2】 市民公益活動活性化に向けた場づくり

市内で行われるさまざまな市民公益活動の情報共有や交流等ができる場をつくりま

す。

【取り組み3】 市民公益活動への中間支援策の実施と組織結成の働きかけ

中間支援とは、市民公益活動のそれぞれの分野を超えて、ボランティアを志願する個人と市民公益活動団体、市民公益活動団体同士、行政と市民公益活動団体などの間に立ち、運営面のアドバイスや相談、情報提供等を行い、中立的な立場で、それぞれの活動を支援し、結びつける活動のことです。

最近では、こうした中間支援活動を行うことを目的とした組織も各地で誕生していますが、現在、藤井寺市にはそのような組織はまだ見られません。

市では、当面は協働担当部署がこの役割を担いながら、中間支援組織の候補となる団体に対する働きかけや組織結成のための支援を行います。

【取り組み4】 地域が力を発揮できるための支援

市内では、自治会や町会などが盛んに活動をされていますが、生活の多様化とともにこうした組織への加入率の低下も想定されます。市では、こうした活動への支援を通じて、地域が力を発揮できるような取り組みを行います。

【取り組み5】 情報発信等の支援

市民公益活動団体の活動内容や、ボランティアの募集等をさまざまな媒体で情報発信できるような支援を行います。

② 参加・参画機会の拡充

市は市政に対する意見募集の機会等を拡充し、市民の意見を市政に反映できるように

努めるとともに、各事業に多くの市民が参加できるような配慮を行います。

また、市民のまちづくりアイデアを市民と市で一緒に実現できる環境を整備します。

取り組み6 市民のアイデアを活用する協働事業提案の募集と市民による事業評価
平成25年7月27日・8月5日に実施した「ふじいでら市民井戸端会議」では、市民と市職員が市を活性化するためのアイデアを話し合いました。

そのなかで、市が事業を実施する際に市民も企画段階から関わりたい、との意見もありました。

市では、こうした市民のアイデアを市民と行政が協働して実現するための事業提案の募集を行います。

また、そうした協働事業の評価を行政だけが行うのではなく、市民も参加できる仕組みを構築します。

③ 協働意識の啓発

市はあらゆる機会を通じて、「協働のまちづくり」の必要性の啓発を行い、多くの市民の理解が得られる環境を整えるように努めます。

取り組み7 市民と市職員がともに学び、話し合う場の設定

協働のまちづくりを進めていくためには、市民と行政がどのように協働し、その結果どのようなまちづくりを目指すのかといったビジョンを全ての市民と市職員が共有しながら進めていかなければなりません。市では、こうしたまちづくりの基本理念について、市民と学び、話し合い、共有できる機会を設定します。

④ 組織と市職員の意識の改革

市は市民からより一層の信頼を得るために、前例や慣例踏襲的な体質を改善して、効率的な行政運営を行うとともに、全庁的に市民との協働を推進します。また、市職員の協働に対する意識を高めるための研修機会を充実し、市職員一人ひとりの理解を深め、協働事業をコーディネートできる能力の向上を図ります。また、一人の市民としての地域等での活動への参加を促進し、実践を通じた意識づくりを推進します。

取り組み8 継続的な行財政改革と全庁的な協働推進体制の整備

継続的な行財政改革を行うとともに、全庁的に市民との協働を推進していくための体制整備を行います。

取り組み9 「協働のまちづくり」を担う市職員の育成

市職員の研修を実施し、協働型まちづくりについての理解の促進と地域等での市民公益活動への参加を啓発します。

	<p>⑤ 市政情報の更なる公開</p> <p>市は事業の計画や進捗状況を積極的に公開し、市民との情報や意識の差をなくすように努めます。特に、行政が担うことのできる範囲を市民が検討するうえで必要な情報をわかりやすく伝える工夫を行います。</p> <p>取り組み10 効果的な情報の提供</p> <p>新しいメディアの活用も含め、広報紙や市ホームページを通じて市政情報をわかりやすく伝えます。</p>
河内長野市	<p>1. 推進のための役割</p> <p>市民公益活動をより活性化し、協働によるまちづくりを進めるためには、行政だけでなくそれぞれの担い手がそのための役割を担っていく必要があります。</p> <p>ここでは、市民公益活動を社会全体で支え、協働を進めていくという観点で、支援や協働を進める上での役割を整理します。</p> <p>(1) 行政の役割</p> <p>自治体運営の基本原則（第1章「協働によるまちづくり」参照）をもとに、市民公益活動の基盤づくりや協働の促進を行っていくとともに（第3章「推進の具体的な方策」参照）、これらを進めていくためのルールや体制を整える（第4章「推進の仕組み」参照）など、市民公益活動の支援や協働促進のための施策を、市民参画のもと総合的・具体的に推進していく必要があります。</p> <p>(2) 市民の役割</p> <p>地域社会の一員として、地域に関心を持ち、自らが地域づくりを行う担い手であることを自覚するとともに、お互いが連携し、協力してまちづくりに取り組んでいく必要があります。</p> <p>そして、市民公益活動への理解を深めるとともに、市民公益活動に自主的に参加・協力・支援していく必要があります。</p> <p>さらに、市民公益活動を組織として行う場合は、活動内容や理念などについて広く理解されるよう、社会に対して積極的に情報を公開していく必要があります。</p> <p>(3) 事業者の役割</p> <p>事業者は地域社会の構成員として、多様な担い手との交流・連携を図るなど、協働によるまちづくりに寄与するために、様々な面で地域社会に貢献していく必要があります。</p> <p>また、市民公益活動に対しての理解を深め、市民公益活動に自主的に参加・協力・支援するとともに、従業員などが市民公益活動に参加しやすいよう配慮していく必要があります。</p>
摂津市	<p>協働の担い手の役割と動き方</p> <p>協働のまちづくりを広げていくためには、様々な人や団体がそれぞれの役割を果たすとともに、「一歩ずつ前に歩み寄る」ことが必要です。</p>

市民

市民の皆さんへ

「気づいたこと」「何とかしたいこと」を家族や周囲の人に話してみましよう。周囲の人も同じ思いかもしれません。

ご近所さんと何気ない「井戸端会議」を楽しみましょう。話の中で気になることがあれば、「何とかならへんか！」と前向きに話し合い、できることから実践してみましよう。

市民（団体）の皆さんへ

地域の皆さんの多様な意見や考え方に耳を傾け、問題意識や抱えている課題をしつかりと把握しましょう。そのうえで、自分たちが有する専門性やノウハウをどのように生かすことができるのかを考えてみましょう。

地域には様々な人がいます。得意な人を見つけて任せてみましょう。世代により問題意識や得意とすること（外部との連携や書類作成、情報発信など）が違います。世代間で上手に連携・協力しましょう。

地域で活動している様々な団体間で、気楽に話せる場を持ち、情報を共有するとともに、連携・協力しましょう。

事業者

NPOの皆さんへ

地域の皆さんの多様な意見や考え方に耳を傾け、問題意識や抱えている課題をしつかりと把握しましょう。そのうえで、自分たちが有する専門性やノウハウをどのように生かすことができるのかを考えてみましょう。

一足飛びに理想の実現を求めるのではなく、地域の皆さんの関心・問題意識を確かめながら、段階的に活動のレベルアップを実現しましょう。

商店・オフィス・工場、事業者団体、病院・福祉施設、学校の皆さんへ

地域の一員として、事業所や施設の周辺のまちづくり活動に関心を持ちましよう。地域での活動に、できることから少しずつ参加・協力してみましよう。

自社の特性や強みを生かした、自分たちにできる社会貢献活動について話し合ってみましよう。